

「心の輪を広げる体験作文」
北海道最優秀賞

「当たり前」の差のない社会 それが私の願い

富丘中学校2年

菊地 寧音 さん



障がいの有無にかかわらず、全員が踊りを楽しむよさこいチーム「動・夢・舞（どんまい）」(Instagramアカウント: donmai1997) に所属。同チームでの体験を描いた作文「私の願い」が、北海道が主催する「心の輪を広げる体験作文」で最優秀賞を受賞した。将来の夢は、人を感動させられるような創作的な仕事に就くこと。

みなさんの活躍
紹介します

窓の心

菊地さんの作文を
動画で紹介しています



「できない」と決めつけず、いつの間にかできるようになっていた、成長していた点を探して着目すれば、見方が変わると思います。
(編集部注: 動・夢・舞のメンバーで特別支援学級に通う「そうくん」は、感情のコントロールが苦手。作中には雨の中、そうくんがよさこいパレードに参加する描写がある)
例えばそうくんは、苦手な雨で暴れるかと思っていたけれど、ちゃんと最後までパレードについてきて、成長を感じさせてくれました。

作品「私の願い」には、障がいのある人とない人の間にある「当たり前」の差をなくしたいとの願いが込められています。
普段の生活でも、両者の「当たり前」に隔たりがあると感じます。それはやっぱり、その人が持つ障がいや特性について知らない人が、周りに多いからだと思います。そのことをたくさんの人に伝えたくて、この作品を書きました。
菊地さんの願いを実現するには、一人一人がどんな意識を持つことが重要だと考えますか。
「できない」と決めつけず、いつの間にかできるようになっていた、成長していた点を探して着目すれば、見方が変わると思います。

作品に込めた願いを特に知ってもらいたいの、私と同じ世代の人たちです。学校生活の中でも、障がいへの無理解や、無意識の差別をふと感じることがあります。それでも、作品を読んでくれた人が感動して「泣いちゃった」と報告してくれたりもして、うれしくなりました。少しずつだけど、私の夢って叶っているんだなと実感しています。

「よさこいチームの動・夢・舞は、どんなチームですか。」
障がいのある人が「不便」と思う前に改善したり気づいたりすることができ、そんなチームです。私が入会を決めたのも、運動が苦手な私のことを「大丈夫だよ」と受けとめてくれたからです。動・夢・舞の一番好きなところは、チームのみんなの最高の笑顔を見られること。障がいのあるなしにかかわらず、一緒に踊ってみんなで笑顔になれる、その瞬間が大好きです。
受賞を聞いて、動・夢・舞の皆さんの反応はいかがでしたか。
受賞を一番喜んでくれたのが、そうくんのお母さんでした。
(編集部注: 作中には、そうくんが学校で、給食の残飯であるパンを4個も食べてしまう描写がある)
残りのパンを食べてしまったことは、日常ではなかなか想像しにくいことです。けれども、周りがそうくんの特性を理解して、例えばパンを簡単に取れない場所に置くとか、工夫をする。みんなが「こうすれば起こらないんじゃないか」と考えるようになれば、こういう出来事も減らせるのではないかと思います。
その認識が段々と広まっていくけば、「当たり前」の差は減っていくかもしれないですね。

第45回

胃がんの治療には、内視鏡治療、手術、薬物療法などがあります。治療は、がんの進行の程度を示すステージ(病期)に応じた標準治療を基本として、がんの性質や体の状態などを総合的に検討します。遠隔臓器やリンパ節への転移がなく、がんの深達度が粘膜までにとどまる早期胃がんの場合は、内視鏡治療が中心です。

先生、教えて!
CHITOSE CITY HOSPITAL
市立千歳市民病院 地域医療連携課
☎(24)3000 内線 8138

胃がんについて②



市立千歳市民病院
外科主任医長 許理威

約7割以上に對し、腹腔鏡下手術を行っています。手術ではがんと胃の一部またはすべてを取り除き、同時に胃の周囲のリンパ節を取り除くリンパ節郭清や、食べ物の通り道をつくり直す消化管再建手術も行います。胃の切除範囲によっていくつかの方法があり、代表的なものは、胃全摘術、幽門側胃切除術です。
胃がんの薬物療法には、大きく分けて、①周期化学療法(術前、術後補助化学療法)、②切除不能・再発がんに対する化学療法に分別されます。①は根治性の向上、②は腫瘍制御を目的とした治療です。
胃がんの早期発見には、無症状のうちに定期的な検診を受けることが最も重要です。早期発見できれば、5年生存率95%以上と、高い治療率が期待できます。